

かながわの未来に 今できること

機 関 誌
1 3 8 号
2 0 2 5

ミドリ

midori

公益財団法人
かながわトラストみどり財団



新たなトラスト緑地
大和市深見歴史の森

ケヤキ・ムクノキ・エノキ

財団設立
40周年

- 01 連載 桃山のイモ山ばなし②
アサギマダラとキジヨランの巻 桃山鈴子
- 02 【告知】財団設立 40 周年 講演会開催
古都鎌倉三大幕府と鶴岡八幡宮の成り立ちを
紐解く
- 03 新たなトラスト緑地 大和市深見歴史の森
- 04 ケヤキ・ムクノキ・エノキ
林将之
- 08 令和7年度緑化運動・育樹運動コンクール
- 10 令和6年度事業報告、決算報告
- 12 かながわのナショナル・トラスト運動の
歴史と将来展望③
引地孝一
- 13 みどりのトラスト法人会員の紹介
- 14 自然観察 & 森林ボランティア
- 15 事務局だより
寄附・募金ありがとうございます
新寄附 2025 開始
GREEN×EXPO 2027
各種ボランティア募集開始
- 16 寄附キャンペーン 財団設立 40 周年寄附金募集事業

表紙の写真



11月5日実施 間伐作業(箱根町畑宿)
県民参加の森林づくりで記念撮影

機関誌「ミドリ」年4号から3号発行について

今年度より機関誌「ミドリ」は年3回発行となります。ページ数を増やすなど、情報量はそのままに、またウェブサイトでも読みやすい記事を掲載し、魅力あふれる情報発信に努めています。

会員の皆さまへ

- ※転居先不明で返送されるケースが増えていきます。
住所などの変更がありましたらご連絡ください。
- ※機関誌「ミドリ」は財団公式WEBサイト
(<https://ktm.or.jp>)で読むことができます。
発送停止をご希望の方は財団事務局までご連絡ください。

かながわの未来に、今できること



公益財団法人

かながわトラストみどり財団

1985年に発足以来、神奈川のみどりの保全と創造に関する様々な活動を展開しています。約9千人の会員の支援や募金寄附、ボランティアの皆様の協力を受け、今ある自然環境を次の世代に引き継いでいけるよう取り組んでいます。

☎ 045-412-2525

✉ midori@ktm.or.jp

✂ @kanagawa_midori

f facebook.com/ktm.or.jp

i kanagawa_trust

会員 & 寄附募金のお知らせ

トラスト会員を募集しています。どなたでも会員になれます。ご支援ください!

普通会員 (トラスト会員)

かながわのみどりを守り育てる運動を支える会員です。

個人	年会費	
	大人	2,000円
小学生	500円、中・高校生	1,000円
家族	1家族	3,000円
法人/団体	1口	10,000円

トラスト緑地保全支援会員
(オプション・任意加入)

普通会員の方に任意の加入で特定の緑地を支援していただく会員です。

年会費	
個人/家族	3,000円
法人/団体	1口 10,000円

※5年分の会費を1回でお払いいただくと6年間会員になれます。

会員特典

●会員証

みどりのトラスト会員の証として会員証を発行します。



●機関誌「ミドリ」

財団の最新情報や県内外の自然、環境問題など盛りだくさんの内容です。



●優待施設の利用

会員証及び優待券によって、各地の指定施設を優待利用できます。トラスト運動に賛同していただいている施設です。



財団への会費や寄附は税額控除の対象になります。

現在の会員数

(2025年8月末現在)

	普通会員	緑地保全支援会員
個人会員	3,343人	504人
家族会員	5,405人	724人
法人・団体会員	356人	54人
特別・名誉会員	308人	
計	9,412人	1,282人

遺贈による寄附について

近年、遺言による寄附について関心が高まり、遺贈を受けた公益事業を推進しております。遺言の財産受取人として、公益財団法人かながわトラストみどり財団をご指定いただけます。

「かながわトラストみどり基金」への寄附状況

寄附累計額 (2025年8月末現在)

15億0,177万2,921円

寄附者名 (2025年5月~8月) ※敬称略、アイウエオ順

イオンペーパー(株)、ウエルシア薬局(株)、ウエイズグループ、(一社)神奈川県測量設計業協会、(株)タズミ、羽鳥亨、浜銀ファイナンス(株)、山本勝久

かながわトラストみどり財団への寄附(2025年5月~8月)

財団へ寄付をいただきましたのでご紹介します。誠にありがとうございました。

※敬称略、アイウエオ順

芥川 薫、阿部 功、五十嵐 国夫、池谷 善博、池田 宏、池田 政克、石田 順裕、今井 哲夫、岩城 辰憲、内田 雅俊、榎本 輝雄、大城 美津江、太田 幸久、大塚 和夫、大野 恵美子、小方 武雄、荻野 樹美、小澤 勲、笠原 彰仁、亀井 勝夫、杵淵 明、久田緑地くらぶ、KDDI(株)、小網代会館、児玉 英二、小松 終子、近藤 佐知子、齊藤 吉之、和子、佐藤 浩美、佐藤 美保、佐野 育子、佐佐 明子、泗水 光枝、柴崎 敏和、清水 紀彦、神保 重五郎、菅野 実、菅原 孝美、鈴木 賢治、高井 延幸、高田 和成、高梨 民雄、土肥 愉矩子、長谷川 喜美江、疋田 安曇、平岡 大作、平川 将、深井 三恵子、古澤 琴風、前田 眞智子、榎谷 篤、松田 江利子、松田 直、水野 次郎、宮本 美織、三好 吉清、三好 烈子、森田 裕子、ヤギノリコ、山本 勝久、余郷 志津子、横田 一詩、(特非)よこはま里山研究所、渡部 明、渡辺 真哉、渡辺 千秋、渡辺 葉子、中野 みどり

桃山のイモ山いぼなし

～アサギマダラとキジョランの巻～

寒くなってきましたね。
冬はイモシをほとんど
見かけなくなり、モムは
“イモシロス”になります。

けれど、リケ山のオへ
足をのばしてみれば、

キジョランの

葉に丸い

食べあとが

見つかリ、葉をめくればアサギマダラの幼虫と
出合えることがあります！キジョランは漢字で

「鬼女蘭」実が熟すと中から長い白い綿毛
をもつ種子が飛び出すのですが、その
様子を鬼女が髪をふりまはす様子に
見立てたことに由来しています。鬼女にふさ

わく毒(アルカロイド)を持っているので、アサギマダラの
幼虫は葉を丸くかいて傷あとをつけ、白い毒入りの
乳液を抜いてから食べていると考えられています。

幼虫は木枯らしを耐え忍び、春になると4ヨウになり
飛び立ちます。「渡り」をする4ヨウとしても知られ、春から夏は
北上し、秋になると南下します。なんと、台湾まで渡る
個体もいるそうです。渡りの途中で翅を広げ
海面で休息姿を見た漁師さんが「いるとか?!」



キジョランの実



私
毒入り
のよ

まず葉に
傷をつけて
毒を抜いてから
食べているよ

ボクの体も
毒入り。おかげで
鳥も食べたくないんだ



アサギマダラ
なるよ

こんど
かんじ?



エメラルドのような
ササギ!とこころとこころ
銀色に輝く



春まで
よるしく
ね!

2025年は、財団の前身である「みどりのまち・かながわ県民会議」の発足(1985年)から40年目にあたります。これを契機として、様々な企画を実施してまいりました。40年という節目を越えて、さらに「かながわのナショナル・トラスト運動」を発展させていくため、歴史的環境の保全の講演会を開催します。

(公財) かながわトラストみどり財団設立 40 周年記念

古都鎌倉3大幕府と鶴岡八幡宮の 成り立ちを紐解く



2026年2月21日(土)

時 間: 13時30分～15時40分
(受付開始13時から)

場 所: 鶴岡八幡宮 直会(なおり)殿
(舞殿横の休憩所の建物 2階)

定 員: 200名

自然環境と歴史的環境が織りなす古都・鎌倉を学ぶ講演会を開催します。

『吾妻鏡』などの歴史書によると、中世・鎌倉時代の初め、源頼朝の鎌倉入りによって本格的な整備が始まりました。鶴岡八幡宮を中心に、若宮大路(段葛)の参道を軸として都市整備が行われた模様や、日本初の武家政権である三大幕府の誕生とその背景について学びます。また、最近の埋蔵文化財調査で明らかになった大倉幕府跡の研究内容についても解説します。

古都・鎌倉の自然と都市、そして歴史的環境が織りなす風光明媚な土地の魅力と、その保全の必要性を考える貴重な学びの場です。鎌倉の過去と現在をつなぐ講演となりますので、皆様のご参加をお待ちしています。

■講演・鼎談

八幡義信氏(神奈川県文化財協会顧問)
馬淵和雄氏(一般社団法人鎌倉・中世文化研究センター所長)
講演者を交えた鼎談

■申込方法

公益財団法人かながわトラストみどり財団
〒220-0073横浜市西区岡野2-12-20
ウェブ申込: ktm.or.jp
メール: midori@ktm.or.jp、FAX: 045-412-2300

■申込内容

①イベント名、②参加希望者の全員の氏名、③住所、④電話番号、⑤会員の方は会員番号を明記してウェブ、メール、FAX、葉書にて申し込みください。

なお、定員を超えた場合は抽選となります。

■受付

2026年1月1日(木)～1月31日(土)
期間後、定員に達しなかった場合、募集を延長することがあります。

詳しくは財団ウェブサイトでご確認ください。

■参加費

一般1,000円、学生500円(学生証の提示)、トラスト会員無料

新たなトラスト緑地 大和市深見歴史の森

かながわトラストみどり基金による買入れ

県内に残る自然環境について、街中の都市公園のほか、法律に基づき自然公園や歴史的風土保存区域のように土地利用を規制するなど緑地を保全するものがあります。

しかし、田畑と森が一体になった谷戸や近所の小さな裏山など、各種法令でも保全されず、都市化の進展に伴う開発により失われてしまうものもあります。

そのような貴重なみどりを次の世代に残していくために、神奈川県が1986年に「かながわトラストみどり基金」を設置し、買入れや維持管理など緑地の保全活動に取り組んでいます。

特に売却・開発の恐れが高く、緊急に買入れをしなければ保全が図られない緑地は、保全緑地等選定委員会で審議し、基金を活用して買入れを行っています。

新たな緑地 深見歴史の森

- 所在地：大和市深見76
- 全体面積：12.2ヘクタール

令和6年度神奈川県と大和市が共同で深見歴史の森の一部を買入れました。

深見歴史の森は、大和市の東部、国道246号線南の境川流域に位置しており、市街地に近く、周辺に工場などが立地しています。緑地の周辺では資材置き場や駐車場等が多く、開発圧が高まっており、自然豊かな森を保全するために当該地を買入れ、公有地化しました。



©Google 2025/11/10

トラスト運動のしくみ



一部にクヌギ、コナラ等の落葉樹林や、サワラを中心とした針葉樹林があり、シラカシ、シロダモ、ヒサカキ等の常緑樹が混生している緑地です。

この地区は、戦国時代の古い城跡が遺構として残り、深見城址と呼ばれています。5次に渡る発掘調査の結果、この城址の主郭は土塁に囲まれ、さらに内堀と外堀によって二重に守られていることが分かりました。さらに主郭への出入口にあたる虎口(こぐち)の両側には、横矢と呼ばれる敵の側面に矢を射かけるための構造を設けるなど、攻め手が一気に侵入しないように造られていることが判明しました。こうしたことから、この城は戦の際の陣城であったものと推定されま

す。現在は木々に覆われ、土塁や堀の跡だけが昔の面影を今に伝えていています。

今回、買入れた箇所は、深見歴史の森の西側に位置する、面積約1,800㎡の土地です。引き続き緑地の保全を進めていきます。



身近に生える扇形樹形の木 ケヤキ・ムクノキ・エノキ

写真1 中央公園のケヤキ

林将之

関東地方の風景を象徴する樹木といえば、扇形に枝を広げたケヤキを思い浮かべます。街路樹、公園、屋敷林、雑木林など、あらゆる場所にケヤキの大木が多いことが、関東地方の特徴といえるでしょう。

その美しさ、大きさ、季節ごとに見せる姿は、関東平野の広さと相まって印象的です。私もそうであったように、地方から東京に訪れた人は、「大きな木がたくさんあって、意外にも緑の豊かさを感じた」と感想をもらす人が多くいます。

昨秋にたまたま茅ヶ崎市を訪れた際も、ホテルの前に見事なケヤキが立ち並ぶ中央公園があったので、翌朝の日曜日に散策すると、紅葉したケヤキの周囲に人々たくさん集まってイベントが開かれており、とても壮大で和やかな景色に見えました。私の住む山口県では、ちょっと見られない広々感と大

木のスケール。やはり関東地方は、ケヤキの存在感が圧倒的だなと再認識しました。

(写真1)



ケヤキは、樹形が美しい木、として知られています。その名の由来も、一際優れていることを表す「けやけき」木から来ているといわれ、端整な扇形の樹形が昔から称えられていたようです。しかし、扇形の樹形だけを見て、「あれはケヤキだな」と思ったなら、違う木の場合もあります。よく間違えられるのが、ムクノキとエノキです。身近な低地でよく見られ、樹形も葉もよく似ているので、これら3種はワンセットに覚えておくとよいでしょう。

	ケヤキ	ムクノキ	エノキ
樹形	 <p>特に整った扇形</p>	 <p>ケヤキよりやや粗い扇形</p>	 <p>ケヤキよりやや横広の扇形～円形</p>
樹皮	 <p>若木は灰色で平滑、やや横長の皮目が点在。老木は鱗状にはがれ、はがれる。</p>	 <p>若木は白っぽく縦すじが入る。老木は縦にやや裂けてややはがれる。</p>	 <p>樹皮ははがれず、裂け目はなく、砂状にざらつく。</p>
葉	 <p>鋸歯(ギザギザ)はカーブする。基部の側脈は短く目立たない。</p>	 <p>鋸歯は角張る。基部の側脈はやや長く、外側にさらに分岐する。</p>	 <p>葉の先半分にやや鈍い鋸歯がある。基部の側脈は長く伸び、3脈が目立つ</p>



ケヤキは、ニレ科の落葉高木で、本州～九州の冷温帯から暖温帯まで分布します。ムクノキとエノキも、かつては同じニレ科に分類されていたため、俗に「ニレ科3兄弟」とも呼ばれることもありました。しかし、2010年代から広まったDNA解析によるAPG分類体系によって、ムクノキとエノキは新たに設立されたアサ科に移され、ケヤキと別の科になってしまいました。とはいえ、ニレ科とアサ科はごく近縁なグループで、近い仲間であることに違いはありません。ここでは、樹形、樹皮、葉による3種の違いを紹介しましょう。



エノキは、ケヤキやムクノキに比べると、地面に近い位置で枝が分岐し、横に広がる傾向が強くありますが、樹形だけで遠くから3種を正確に見分けるのは困難です。ただ、樹皮を確認すればたいいは見分けられます。ケヤキは、ところどころ鱗状にはがれ、独特のまだら模様に見えることが特徴で、見慣れると樹皮だけですぐケヤキと分かります。一方のムクノキは、樹皮が白っぽく、縦すじが入る点で見分けられ、根が板状になってせり出しやすい傾向もあります。

ただし、幹の直径が1mにも達するような大木では、両種とも樹皮全体が著しくはがれて、見分けにくくなります。そのような個体では、上部の細い幹を確認するか、葉を確認することが重要です。

対するエノキは、大木になっても樹皮が平滑で、裂けたりはがれたりしません。また、枝が落ちた痕(枝痕)に横すじができやすく、特に細い幹や横枝で、ほぼ等間隔に横すじが入って見えることも特徴です。



樹形や樹皮は、環境や樹齢による変異や個体差が大きいので、最終的には葉を確認して見分けることが大切です。図表のように、鋸歯の形や葉脈の配列で、3種は明瞭に区別できます。ただし、葉の

形も幼木と成木、日なたの葉と日陰の葉などで、葉の大きさや光沢感、厚さなどに変異が生じるので、1枚の葉や個体にこだわらず、様々な葉や個体を確認することが大切です。



果実があれば、3種はより見分けやすくなります。ケヤキの果実は、3mm程度で茶色くて硬く、地味で目立ちません。小型化した数枚の葉と一緒に落果することで、風に飛ばされる構造になっています。ムクノキの果実は、黒紫色で径1cmぐらゐでシワが入り、干し柿の味がして食べることもできます。エノキの果実は、橙～赤色で径5mm前後、こちらも干し柿の味がして食べることもできます。ケヤキの種子は風で散布されるのに対し、ムクノキとエノキが主に鳥によって散布されるので、道端や公園、庭先など、あちこちで幼木が生えている様子をよく見かけます。特にエノキは、明るく開けた環境を好み、鳥も果実をよく好むようで、身近な道端に生えてくる木の代表種といえるでしょう。

エノキが自生する典型的な環境の一つが、河原です。神奈川県内の低地の河原や河川敷でも、草原の中に丸い樹形のエノキの若木が単木的に生えた様子がよく観察できます。緩やかな平野部の河原に成立した林(河畔林)では、ムクノキもよく交じって生え、植生学ではエノキ・ムクノキ群集とも呼ばれます。ヤマグワやヌルデ、イボタノキなどもよく交じます。関東～九州の平野部の河原には、このエノキ・ムクノキ群集が多く見られるのです。ただし、暗い樹林になると両種とも生えなくなるので、明るい環境で育つ陽樹といえます。

一方、ケヤキが自生する典型的な環境は、谷沿いの林です。標高500m以下ぐらゐの暖かい低山では、イロハモミジやムラサキシキブなどとよく交じって生え、標高1000m前後の冷涼な山地では、サワグルミやチドリノキ、フサザクラなどと交じって林(溪畔林)を形成します。ケヤキは、意外にも海岸林の斜面に生えることもあり、かなり多様



な林に生えます。明るい環境に単木的に生えることはほとんどなく、樹林の中で育つので、陰樹といえます。



3種とも高木になりますが、特にケヤキは落葉広葉樹の中でも有数の大木になる木で、幹の直径は1m以上、樹高30mにも達し、全国の神社などに見事な大木があります。ケヤキの木材は、赤茶色が強くて木目がはっきりしており、テーブル、お椀などの家具や器具に昔からよく使われる屈指の有用材なので、広葉樹の中ではクヌギ(しいたけのほだ木や木炭が主な用途)と並んで植林されることも多い木です。

それに対してエノキやムクノキは、大木にはなりますが幹が直径1mを超えるものは珍しく、樹高もケヤキに比べると低めです。木材の有用性も

低く、林業や木工の分野で登場することは稀で、もっぱら勝手に生える雑木のような印象です。また、エノキもムクノキも冷温帯には分布せず、寒地や北日本では見られせん。寒地では、エノキとムクノキの葉の中間形をしたエゾエノキに置き換わります。



いずれにせよ、ケヤキ、エノキ、ムクノキは、神奈川県では市街地から里山まで身近に見られる木の代表種なので、自然と親しむ人にはしっかり覚えてほしい“ニレ・アサ科の3従兄弟”です。

プロフィール



はやし まさゆき
林 将之

樹木図鑑作家。

山口県田布施町生まれ。このきなんのき研究所所長。千葉大学園芸学部卒業。

新著「山溪ハンディ図鑑 樹木の葉」山と溪谷社 2025/9発行



令和7年度 緑化運動・育樹運動コンクール

緑の募金

当財団が主催する緑化運動・育樹運動コンクールは森林の保護や保育、植樹などの環境緑化の推進を図るために、昭和37年から行なわれており、毎年神奈川県内の小・中・高等学校（標語・ポスター原画）及び一般の神奈川県民の皆様（標語）へ応募を呼びかけて実

施しています。

この夏、734名の方が樹木を増やそう・大切にしよう・守り育てていこうとする意欲の高揚を「標語」や「ポスター原画」に表現していただきました。

その中でコンクールの趣旨に合った作品を

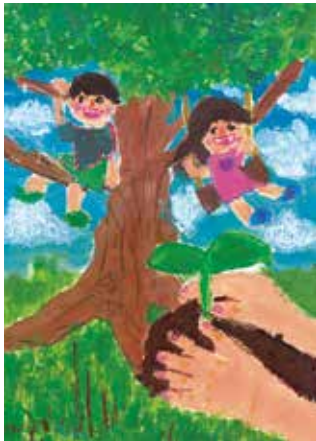
審査・選出し、表彰しています。入賞作品は今後、当財団の緑化活動の普及啓発等に活用させていただきます。

たくさんのご応募ありがとうございました。

なお、上位入賞作品については全国のコンクールに出品されます。

ポスター原画コンクール

小学生の部



「育てよう!みんなの遊び場」

伊勢原市立大山小学校1年 竹内 創人さん

僕と妹やお友達と木登りしたり遊んだりできる大きな木があるといいなと思いました。そのために木を植えて、みんなの遊び場を育てていきたいです。



「木を植えつけていこう」

伊勢原市立伊勢原小学校3年

しば おうき
斯波 旺希さん



「みどり大好き」

伊勢原市立大山小学校2年

こばやし ゆい な
小林 佑衣菜さん



「育てて守る緑の命」

相模原市立向陽小学校4年

おおの ゆり な
大野 結愛さん



「ほくとともだちのき」

愛川町立高峰小学校1年

こうち こうたろう
高知 虎太郎さん



「おおきなきとむし」

伊勢原市立比々多小学校1年

きつかわ りつ
吉川 律さん



「大きな木にそだってね」

相模原市立

向陽小学校2年

おおの なこ
大野 遥琴さん



「ジヨウロと森」

伊勢原市立

伊勢原小学校6年

しらい りん
白井 凜さん



「みんな生きてる」

伊勢原市立

伊勢原小学校6年

かわぐち ともや
川口 智也さん



「しぜんともだち」

伊勢原市立

伊勢原小学校2年

ちば いはき
千葉 颯さん



「守る」

伊勢原市立

比々多小学校2年

いしづか しんぺい
石塚 心陽さん

中学生の部



「よみがえる森」

横浜市立十日市場中学校2年

ほしの りな
星野 里菜さん

沢山の動物が住みやすい世界を作っていこうという未来への希望を描きました。



「水滴は命を与える」

川崎市立菅中学校2年

やなぎさわ みら
柳谷 ミラさん



「未来に繋がる第一歩」

海老名市立

今泉中学校1年

ふかや あかね
深谷 あかねさん

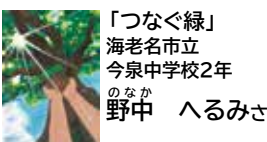


「守れるのは私たち」

伊勢原市立

山王中学校2年

わたなべ ゆな
渡辺 優那さん



「つなぐ緑」

海老名市立

今泉中学校2年

のなか へるみ
野中 へるみさん



「小さな緑の大きな希望」

伊勢原市立

山王中学校3年

ほんだ こなつ
本多 小夏さん



「緑のつながり」

伊勢原市立

山王中学校3年

みやもと ことみ
宮本 琴未さん



「未来へ繋ぐ命のバトン」

茅ヶ崎市立

梅田中学校1年

こばやし ゆずか
小林 柚花さん

高等学校の部



「地球を包む、
私たちの手で」

川崎市立
川崎総合科学高等学校2年
にしむら ゆい
西村 唯さん

私たちの手で地球を守り、育てていくという思いを込めました。一本の木を植えること、小さな緑を育てることの大切さ、地球の未来について考えてもらえるように描きました。



「緑!!増やそう♡♡♡」
神奈川県立白山高等学校1年
すずき かほ
鈴木 果帆さん



「未来へ」
神奈川県立
小田原城北工業高等学校2年
たけうち ゆな
竹内 結菜さん



「緑の温もり」
川崎市立
川崎総合科学
高等学校2年
みさわ あんな
三澤 杏菜さん

標語コンクール

小学生の部



「育てよう
小さな苗で
大きな未来」

海老名市立上星小学校6年
あさみ りく
浅見 楓さん



「苗木うえ
みどりがおしゃべり
ゆめの森」

相模原市立向陽小学校2年
おおの なこ
大野 遥琴さん

「木をうえて
ちきゅうの未来をかえていく」

伊勢原市立伊勢原小学校3年
すがぬま れい
菅沼 礼さん



「手をとって 守り育てる みどりの「わ」」

大和市立林間小学校4年 すずき りこ
鈴木 璃子さん

「育てよう 地球の緑 未来まで」

大和市立林間小学校6年 かつらぎ あすま
葛城 明日真さん

「木を植える その行動が 未来を救う」

伊勢原市立大田小学校6年 とやま ごう
外山 剛さん



●大和市立林間小学校4年 花松 咲良さん／●大和市立林間小学校6年 岩本 志帆さん／●綾瀬市立北の台小学校6年 佐藤 結志さん／●小田原市立国府津小学校5年 熊谷 純怜さん

中学生の部



「植樹の輪
つながれ広がれ
未来へと」

川崎市立住吉中学校3年
たきぐち りょうた
滝口 翔太さん



「植樹して
ぐんと広がれ
緑と未来」

秦野市立南中学校2年
もろた かずま
諸田 和真さん

「繋いでく
緑の豊かさ
次世代へ」

鎌倉女学院中学校3年
いとう あき
伊藤 碧祇さん

「この一歩
百年先の
森作る」

鎌倉女学院中学校3年
なおい かこ
直井 珈子さん



「木を植える 僕らの手から はじまる未来」

川崎市立住吉中学校1年 はた あおと
畑 葵翔さん

「緑の地 未来育む 希望の芽」

茅ヶ崎市立北陽中学校1年 ぬまた ゆうゆ
沼田 友結さん

「木を植えて 緑と笑顔 広がる根(ね)」

茅ヶ崎市立北陽中学校1年 まつばら ゆさ
松原 由彩さん

「育てよう地球も喜ぶ小さな芽」

鎌倉女学院中学校3年 しんはら りのん
新原 凜音さん



●川崎市立住吉中学校1年 新山 瑞希さん／●海老名市立今泉中学校1年 中尾 颯良さん／●鎌倉女学院中学校3年 太田 真央さん／●鎌倉女学院中学校3年 沼倉 沙桜さん／●鎌倉女学院中学校3年 本間 由梨さん

一般の部

●大和市 吉見 章二さん

令和7年度 緑化運動・育樹運動
標語・ポスター原画コンクール
受賞作品展示会

■神奈川県庁新庁舎1階ホール
(横浜市中区元浜町1丁目3)
2026年1/6～1/14
※土日祝日閉庁

■神奈川県自然環境保全センター 2階
ブナの森ギャラリー (厚木市七沢657)
2026年1/31～3/26
※月曜日休館